

第4学年 外国語活動学習指導案

日 時：令和元年9月27日（金）

場 所：4年2組教室

学 級：4年2組 39名

指導者：HRT 井上 顕太郎

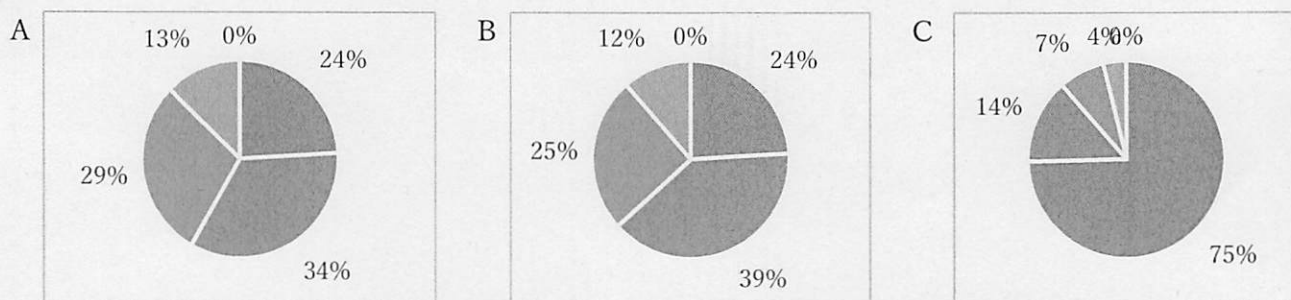
1 単元名

Let's Try!2 「Unit4 What time is it?」

2 児童観

6月に行ったアンケートでは、A「英語の時間・活動で、先生が英語で話していることがわかりますか」という問いに対して、そう思うと回答した児童が24%と、他のアンケート項目に比べると低い。また、B「英語の時間・活動でならった英語を話すことができますか」という問いに対しても、そう思うと回答した児童が24%と、他のアンケート項目に比べると低い。

しかし、C「英語を話せるようになりたいですか」という問いに対しては、そう思うと回答した児童の75%を含め肯定的に回答した児童は併せて約9割と高い。



これらのことから、英語で話したり聞いたりすることのスキルはあまり高いとは言えないが、英語を話せるようになりたいという意欲は高いということが分かる。このため、英語の時間に扱う単語や話型がより分かりやすく、覚えやすいものであれば、「わかった」、「話せた」という経験や自信、さらなる意欲につなげることができるのではないかと考え、授業内容を工夫した。

3 研究主題にせまるために（主体的・対話的で深い学びによる授業改善の手立て）

- (1) 自分と相手の生活時間の違いに興味をもたせることにより、学習活動に必然性と意欲をもたせる。
(主体的)
- (2) Script+1 で取り入れることができそうな英単語を、日常的に目にすることができるよう廊下に掲示する。(慣れ親しみ)
- (3) コミュニケーション活動を通して相手のことをより詳しく知ることができる楽しさを実感させる。
(対話的)
- (4) 世界の国や地域によって時刻や生活習慣に違いがあることを知り、他国への興味・関心を広げる。
(深い学び)

4 単元の指導目標

- ・世界の国や地域によって時刻が異なることに気付くとともに、時刻や生活時間の言い方や尋ね方に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・相手と互いの生活時間について、尋ねたり答えたりして伝え合う。(思考力、判断力、表現力)
- ・相手に配慮しながら、自分の生活時間について伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

5 言語材料

(1) 表現(児童の発話)

- ・ What time is it?
- ・ It's (12 a.m.) .
- ・ What time is your ("Lunch Time") on Sunday?
- ・ It's ("Lunch Time") .

(2) 語彙(児童が使う語彙)

- ・ 数字(1～12), a.m., p.m.
- ・ 日課・時間 ([wake-up/breakfast/study/lunch/snack/dinner/homework/bath/bed/dream]time)

6 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

7 単元の評価規準

知識・技能	① 世界の国や地域によって時刻や生活習慣が異なることに気付いている。 ② 時刻や生活時間の言い方や尋ね方に慣れ親しんでいる。
思考・判断・表現	① 自分の生活時間について、尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。 ② 身近な事柄に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストと結びつけることができる。
主体的に学習に取り組む態度	① 学習に興味をもち、意欲的に学習活動に参加することができる。 ② 学習に見通しをもち、積極的に相手とコミュニケーションを取ろうとすることができる。

8 単元指導計画（4時間）

時	目標（◆）と主な活動（○） 主題にせまるための手立て（◎）	評価
1	◆時刻の表し方を知る。 ○あいさつ、チャンツ「What time is it?」（P 1 5） ○1～12の数字の英語の言い方を復習する。 ○時刻の言い方「It's (12 a.m.)」を知り、練習する。 ○活動①（P 1 4、15） ◎3－（1）	知－② 思－② 主－①
2	◆日課の表し方を知る。また、時刻と日課を聞き取る活動を通して、世界と日本との違いに気付くことができる。 ○あいさつ、チャンツ「What time is it?」 ○「Small Talk」（本時につながるような内容で、HRTと児童で1分間程度話す） ○時刻の言い方「It's (12 a.m.)」を復習する。 ○日課を表す語句や言い方「It's ("lunch time")」を知り、絵カードなどで練習する。 ○活動②（P 1 6、17） ◎3－（1）、（4）	知－① 知－② 思－② 主－①
3	◆時刻や日課を聞き取ることができる。 ○あいさつ、チャンツ「What time is it?」 ○「Small Talk」（本時につながるような内容で、HRTと児童で1分間程度話す） ○日課を表す語句や言い方「It's ("lunch time")」を絵カードなどで練習する。 ○「What time is your ("lunch Time")?」「It's (12 a.m.)」の会話の仕方を知り、練習する。 ○活動③（P 1 6） ○活動④ ☆互いの生活時間を伝え合う ◎3－（1）	知－② 思－② 主－①
4 （ 本 時 ）	◆自分の生活時間について、互いに伝え合うことができる。 ○あいさつ、チャンツ「What time is it?」 ○「Small Talk」（本時につながるような内容で、HRTと児童で1分間程度話す） ○日課を表す語句や言い方「It's ("lunch time")」を絵カードなどで練習する。 ○「What time is your ("lunch Time") on Sunday?」「It's (12 a.m.)」の会話の仕方を知り、練習する。 ○活動④ ☆互いの生活時間を伝え合う（日曜日） ○活動⑤ ☆互いの生活時間を発表し合う ◎3－（2）、（3）	知－② 思－① 主－②

9 本時（全4時間の4時間目）

（1）本時の目標

◆自分の生活時間について、互いに伝え合うことができる。（思考、判断、表現）

（2）準備物

・既習の言語材料（絵カード） ・ワークシート

（3）表現・語彙

・What time is your ("Lunch Time") on Sunday? ・It's (12 a.m.) . ・日課を表す語句

（4）本時の展開

時間	○児童の活動 △児童のつまずき	☆指導上の留意点	・準備物 評価
導入 (10分)	<u>Greeting</u> ○あいさつ ○「BEST」の確認 <u>Warming up</u> ○既習の英単語の復習をする。 <u>Small Talk</u>	☆児童に自信をもたせるため、できたことを積極的に褒める。	・英単語カード
展開 (30分)	<u>Today's goal</u> ○本時のめあてを確認する。 自分の生活時間について、友達と伝え合おう。 <u>Activity 1</u> ○Scriptの練習。 ① Aの練習（4種類×2回ずつ） ② AとBのやり取りの練習（クラスを2つに分けて4種類×2回ずつ） ③ 教師と代表児童で練習 ④ ペアで練習 △自信をもって話せない。 活動④（10分） ★ペアでじゃんけん。勝ったほうがA A: What time is your ("Lunch Time") on Sunday? B: It's (12 p.m.) . ★ワークシートに記入したら、AとBで役割を交代し、同様に行う。 ★A、Bのやり取りに付け加えて話す。 例: あいさつ (Hi. Hello.等) やリアクション (Oh! Really?等) <u>Activity 2</u> ○友達の生活時間を紹介する。 活動⑤（10分） ★紹介したい友達の生活時間がある児童を指名する。 C: What time is your ("Lunch Time") on Sunday? D: It's (12 p.m.) . ★他にも同じ時間の児童がいるかどうかクラス全体に聞くなどして、Activity 1の結果を交流する。 ★友達の生活時間を聞いてのリアクション (Oh! Really?等) を促す。	☆児童の不安を少なくするため、練習の時間を多く設ける。 ☆児童の意欲を高めるため、よいところや頑張ったことを褒める。 ☆活動の仕方が分からない児童には、HRTが助言する。	・ワークシート 知-② 思-① 主-②

まとめ (5分)	Reflection ○リフレクションカードを書く。 ○感想を言う。 Closing ○あいさつをする。	☆リフレクションカードの記入事項を確認する。 ☆数名の児童に感想を発表させる。	・リフレクションカード
-------------	--	--	-------------

(4) 授業観察の視点

- ・ Activity 1、2 は、単元の中で必然性が感じられるものであったか。また、児童の主体性を引き出すのに有効だったか。
- ・ Activity 1、2 は、Script+ 1 の「+ 1」を引き出すために有効な活動であったか。
- ・ Script+ 1 の「+ 1」を引き出すことは、これまでの既習事項を活用すること、今後も既習事項を積み重ねていくことにつながるか。

10 板書計画

